



成婚率の高さが決め手!!
コンピューターを使わず、すべて手づくり100%の誠実なマンツーマンシステムです。また、ご家庭環境、お人柄等バランスのとれたご提案により、無駄のないご紹介を実施しています。

100%手作りのお世話®

結婚物語

心に響く言葉

結婚の意思確認…二人来社…それはエムロードでご交際が順調に進んでいる時に、交際中のお二人に揃って来社していただき、意思確認をする事をいいます。国立大学卒業後、一部上場企業で仕事をする彼は35歳。言葉は少なく、… → 続きはWebで [エムロード結婚](#)

Marriage Road 結婚

エムロードはここが違います

- 1 成婚率の高さ
- 2 質の高い会員層
- 3 自社会員のみ構成
- 4 専任アドバイザーによる一貫したお世話
- 5 マッチングアプリやネットが苦手な方



資料請求・お申し込み・お問い合わせ

(株)エムロード

0120-4122-46

(10:00~18:00 / 水曜定休)

大阪本社 〒530-0043 大阪府大阪市北区天満 3-2-2 エムロードビル 3F

資料請求

- エグゼクティブコース
- ドクターズコース
- スタンダードコース
- シニアズコース

エムロード 結婚

検索

大阪医科薬科大学 仁泉会 ニュース

仁泉会ニュース 第55巻 第4号

発行所
〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 FAX
072-682-6166 072-682-6636

発行者 発行部数
安藤嗣彦 6,300部

URL
<http://www.jinsenkai.net>

ちよひと、ひと息。



令和6年度総会が開催されました

大阪医科大学 創立100周年 記念事業

数十年先の未来医療へ

大阪医科薬科大学病院 新本館建築プロジェクト

Super Smart Hospital

スマート医療を推進する大学病院

「バイオフィリア」という概念を取り入れ、自然と触れ合うことで健康や幸せを得られる空間を実現。

AIやロボットなど先端技術を活用し、効率的で「安全・安心な高度医療」を提供。

最先端の医療技術や高度な多職種連携の学びにより次世代を担う「優れた医療人を育成」。



Since 1927

1960年病院1号館完成

2022年A棟完成

2025年B棟完成

2027年全容完成予定



募集要項

募金目的▶大学病院新本館建築に係る資金、学生支援体制の充実
募金目標▶10億円
募集期間▶～2027年3月
募金単位▶個人：1口1万円、法人：1口10万円
顕彰▶個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします

特典▶個人：10口以上、法人：5口以上ご寄付をいただきました方は、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1回分の無料受診券を進呈します。
申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。



大阪医科薬科大学基金

大阪医科薬科大学基金は、皆様からいただいた募金を積み立てて資金運用することによりさらに増やしていくもので、基金の拡充は、長期間にわたる「教育・研究活動」「良質な医療の提供」の強化に繋がります。

募集要項

募金単位▶個人：1口1万円 法人：1口10万円
申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。
【お問い合わせ先】募金推進本部 072-684-7243

【税制上の優遇措置】学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人です。大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。

学校法人大阪医科薬科大学 募金推進本部 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
OMPU Tel: 072-684-7243 Mail: kikin@ompu.ac.jp Web: https://www.ompu.ac.jp/donation/index.html

至誠仁術を備える人材の育成をめざして

ご支援のお願い

目次

P4	祝・大阪医科薬科大学病院病院長ご就任！	勝間田 敬弘先生 (特別会員)
P5	祝・大阪医科薬科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室教授ご就任！	萩森伸一先生 (学38期)
P6	祝・大阪医科薬科大学整形外科学教室教授ご就任！	大槻周平先生 (学47期)
P7	祝・日本臨床整形外科学会理事長ご就任！	長谷川利雄先生 (学32期)
受章報告		
P7	瑞宝中綬章 旭日双光章	竹中 洋先生 (学23期) 刈谷隆明先生 (学22期) 橋本 寛先生 (学27期) 神谷鋼彦先生 (学14期)
受賞報告		
P8	優秀論文賞 若手研究者海外発表奨励賞	廣田友香先生 (学57期) 梅田千鶴先生 (学65期)
令和6年度仁泉会総会 開催報告		
P9	総会挨拶	仁泉会理事長 安藤嗣彦 (学20期)
P10	令和6年度 仁泉会総会あいさつ	大阪医科薬科大学理事長 植木 實先生 (学12期)
P20	令和5年度 事業報告書	
P21	令和5年度 収支決算書総括表	
祝・入学 令和6年度大阪医科薬科大学入学宣誓式		
P26	学長式辞	大阪医科薬科大学学長 佐野浩一先生 (学29期)
支部だより		
P28	仁泉会大阪市北区支部総会開催報告	太田祥彦 (学38期)
クラス会だより		
P29	春の49杯 (第84回)	竹中正純 (学23期)
P30	学26期同期会報告	木戸友幸 (学26期)
仁泉ひろば		
P31	下山事件 ～米寿を迎えて雑感～	下山 誠 (学6期) 丸山俊郎 (学12期)
P32	大阪南部での精神科病院で 心身含めた総合的な精神科医療を目指す。	横田伸吾 (学36期)
P34	大阪医科薬科大学サッカー部 伊藤隆英部長就任式の報告	今井義朗 (学56期)
寄稿		
P36	下咽頭がんで声を失ったりハ医が、 がんと共存していくと思えるまで ～生きていくには社会参加が必要だ！～	太田利夫 (学31期)
P38	会員著書	佐藤英一 (学42期)
P39	まんが第68回	ボン太ウルス座 (学31期)
本部だより		
P40	会員計報	
P42	開業しました！ 編集後記	伊元さやか先生 (学59期)



祝・大阪医科薬科大学病院病院長ご就任！ 勝間田 敬弘先生(特別会員)

ご挨拶

文責／勝間田 敬弘
(大阪医科薬科大学病院病院長・特別会員)



勝間田 敬弘先生ご経歴

- 1988年 3月 金沢大学医学部医学科 卒業
 - 1988年 5月 東京女子医科大学附属日本心臓血管研究所
小児循環器外科学教室 入局
 - 1996年 1月 東京女子医科大学附属日本心臓血管研究所
循環器外科学教室 助手
 - 1996年 2月 Honorary Senior Registrar,
Department of Cardiac Surgery,
Oxford Heart Centre,
John Radcliffe Hospital,
University of Oxford, UK(～2000年2月迄)
 - 2000年 4年 社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院
心臓血管センター 外科部長
 - 2004年 4月 大阪医科大学 外科学講座 胸部外科学教室
教授
 - 2004年 4月 大阪医科大学附属病院 心臓血管外科
診療科長(～2024年3月迄)
 - 2008年 4月 大阪医科大学附属病院 副院長
(～2024年3月迄)
 - 2012年 4月 大阪医科大学附属病院 薬剤部部长
(～2020年3月迄)
 - 2020年 4月 大阪医科大学附属病院 医療総合管理部部长
(～2022年3月迄)
 - 2020年 4月 大阪医科大学附属病院 臨床工学室 室長
(～2024年3月迄)
 - 2021年 4月 東京女子医科大学 客員教授(心臓血管外科)
 - 2021年 5月 大阪医科薬科大学病院 循環器センター
副センター長(～2024年3月迄)
 - 2021年 6月 学校法人大阪医科薬科大学 評議員
 - 2022年 4月 大阪医科薬科大学病院 病院長補佐を兼任
(～2024年3月迄)
 - 2024年 4月 大阪医科薬科大学病院 病院長
 - 2024年 4月 学校法人大阪医科薬科大学 理事
 - 2024年 4月 大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター
センター長
 - 2024年 4月 高槻市医師会 理事
 - 2024年 5月 公益社団法人大阪府三島救急医療センター
理事
- (現在に至る)
(記載内容は2024年5月27日現在)

2024年4月1日に病院長を拝命いたしました。“コロナ禍”から社会全体が立ち上がるこの時期に、南 敏明前病院長から重責のバトンを受け取りました。思い返せば、2008年の花房病院長の御就任時以来16年間、5人の病院長の下で副院長・病院長補佐として病院運営の貴重な経験を積ませていただきました。その中でも南前病院長の御任期4年は“コロナとの闘い”と同時に当院が新たなステージに進む大きな変革期でありました。私の使命は、社会的困難を乗り越えた後の新しい価値の創生に向けて邁進することにあります。

現在、“スーパースマートホスピタル”そして“温かい病院”をコンセプトに新本館の建設を核とする病院全体の刷新と再編成が進行中です。

2022年7月に開院した新本館A棟は、三次救急診療機能を有する救命救急センターと先進的ながん診療を提供するがん医療総合センター、さらに病棟専属のリハビリテーション室が配置された最新設備です。開設後の20ヵ月間に、A棟のみで17000人を超える救急患者さんと9000人を超える新入院患者さんを拝診いたしました。

来たる2025年には、外来と7つの病棟、および周産期部門を擁するB棟が竣工いたします。そこでは、複数の診療科が融合した臓器・疾患別ユニット外来、初診から退院後までの一貫した受診支援、さらに診察や会計の待ち時間を短縮する機能などの、患者さんの受診をより快適にするための環境が整備されます。

医療の質は即ち医療者の質です。“医療者を磨く”ことを忘れずに患者さんと真摯に向き合い、手厚い診療を通じて患者さんに寄り添う温かい病院を目指します。

仁泉会の皆様の御指導と御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



祝・大阪医科薬科大学医学部耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科学教室教授ご就任！ 萩森伸一先生(学38期)

ご挨拶

文責／萩森伸一(大阪医科薬科大学医学部
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 教授 学38期)



2024年4月1日付で、母校である大阪医科薬科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室の教授を拝命しました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

当教室は大阪高等医学専門学校設立の翌々年の1929年6月に開講し、山崎春三教授が初代教授として着任されました。以降、教室の運営は武田一雄教授、高橋宏明教授、竹中 洋教授、河田 了教授へと受け継がれ、この4月より私が6代目教授に就任しました。歴史ある教室を担当するに当たり大変光栄に思いますと同時に、大きな重責を感じております。

私は1983年、大阪医科大学に入学と同時にグリークラブ(当時は男声合唱団)に入部し、多くの仲間と楽しく充実した学生生活を送りました。クラブを通じて発声や聴覚に興味を持ち、またグリークラブの顧問が高橋教授であった縁もあり、1989年の卒業後は迷うことなく大学の耳鼻咽喉科学教室に入局しました。大学病院や関連病院で研修を受けたのち、1998年から2年間、米国ピッツバーグ大学耳鼻咽喉科へ留学し、ヒト側頭骨組織病理解剖の研究に従事しました。帰国後は解剖学教室の協力を得て、ご遺体の側頭骨を削開して解剖を学ぶcadaver dissectionを繰り返して行い、耳の手術解剖と手術器具の扱い方を習得しました。以降、耳科手術・側頭骨外科を専門に、中耳炎や顔面神経麻痺、聴器癌の手術、人工内耳手術などを行ってきました。今後は専門の耳科診療をより高めるとともに、耳鼻咽喉科・頭頸部外科全体に目を配り、診療科としての総合力アップを図ってまいります。

コロナ禍の影響で全国的に耳鼻咽喉科・頭頸部外科を志す若手医師が減少し、大学病院を始め耳鼻科勤務医一人ひとりの負担が増大していることが学会内でも問題になっています。加えて今年度から医師の働き方改革がスタートし、時間外の勤務に制限が設けられた

なかで十分な診療、教育、研究を行わなければなりません。このような時こそ教室員の心を一つに、お互いを助け合いながら日々の仕事がより楽しく充実したものとなるよう、また教室、そして本学がより一層発展するよう力を尽くす所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

萩森伸一先生ご経歴

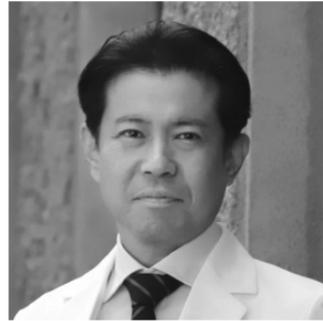
- 1989年 3月 大阪医科大学卒業
- 1989年 6月 大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室入局
研修医
- 1991年 6月 麻田総合病院耳鼻咽喉科 医員
- 1992年 7月 大阪府済生会中津病院耳鼻咽喉科 医員
- 1994年 7月 大阪医科大学耳鼻咽喉科 専攻医
- 1996年10月 大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室 助手
- 1998年 8月 米国ピッツバーグ大学耳鼻咽喉科 研究員
- 2000年 6月 大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室 学内講師
- 2001年 9月 大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室 講師
- 2005年 8月 大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室
診療助教授
- 2007年 4月 大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室
診療准教授
- 2012年10月 大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室 准教授
- 2017年 6月 大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室
専門教授
- 2024年 4月 大阪医科薬科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
教室 教授



祝・大阪医科薬科大学整形外科学教室 教授ご就任！ 大槻周平先生（学47期）

ご挨拶

文責／大槻周平（大阪医科薬科大学医学部
生体管理再建医学講座整形外科学教室 教授
学47期）



大槻周平先生ご経歴

1998年 大阪医科大学 卒業
1998年 大阪医科大学整形外科学教室 入局
2001年 高槻赤十字病院 勤務
2002年 済生会茨木病院 勤務
2006年 アメリカ スクリプス研究所 研究員
2008年 アメリカ スクリプス研究所 上級研究員
2010年 清仁会シミズ病院 整形外科部長
2011年 大阪医科大学整形外科 助教
2018年 大阪医科大学整形外科 講師
2024年 大阪医科薬科大学整形外科 教授

大阪医科薬科大学仁泉会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。2024年4月1日付で大阪医科薬科大学整形外科学教室の教授を拝命いたしました大槻周平です。

私は1992年大阪医科大学に入学しました。学生時代はバレーボール部に所属し、大変充実した生活を送り、人とのつながりの大切さを学びました。卒業後、1998年に本学整形外科学教室に入局しました。大学院では関節軟骨と膝変形の関係について研究を行いました。その後約3年半、アメリカのスクリプス研究所でMartin Lotz教授に師事し、変形性膝関節症の病態について研究を深め、予想外の結果の中に大切な真実があることを学びました。帰国翌年からは大学スタッフとなり、膝関節温存治療を中心に現在まで研鑽を積んできました。教室には自由な雰囲気と寛容さがあり、今後も継承していきたい長所です。

整形外科には6つの専門分野がありますが、風通しの良い教室の雰囲気であり、ベテランも若手も活躍できる環境作りを継続します。スタッフにはそれぞれの専門分野を確立し、日本のトップランナーを目指してもらいたいと考えています。救急医療については、三島医療圏の中核病院として整形外科の役割を担い、2次救急についても、多くの併存症を加療されている患者さんが、安全に手術を受けられる環境を整えていきます。

私の使命は、大阪医科薬科大学整形外科の臨床・研究・教育の環境をさらに充実させ、患者さんに寄り添い、信頼される整形外科医を多く育成し、高品質な整形外科医療を患者さんに提供することです。今後も誠実な心を持つ若手医師の育成を目指し、皆様に信頼される整形外科を目指してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



祝・日本臨床整形外科学会理事長ご就任！ 長谷川利雄先生(学32期)

長谷川利雄先生（仁泉会東住吉・平野支部支部長 学32期）が大阪から始めて一般社団法人日本臨床整形外科学会 理事長に選任されましたのでご報告申し上げます。

長谷川利雄先生ご経歴

昭和58年 大阪医科大学卒業
平成4年 大阪府三島救命救急センター医長・
大阪医科大学整形外科学教室講師（非常勤）兼任
平成7年 長谷川整形外科医院開設
令和2-4年 一般社団法人大阪臨床整形外科医会会長

受章報告

下記の先生方の受賞が判明いたしました。
母校として慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

瑞宝中綬章

竹中 洋先生（学23期）

旭日双光章

刈谷隆明先生（学22期）

橋本 寛先生（学27期）

瑞宝双光章

神谷鋼彦先生（学14期）

受賞報告

5月30～31日、名古屋コンベンションホールで開催された第48回日本口蓋裂学会総会・学術集会において、母校医学部形成外科学教室の

講師（准）廣田友香先生（学57期）が優秀論文賞を受賞しました。

【研究名】痕跡唇裂に対するわれわれの治療法の分析

助教 梅田千鶴先生（学65期）が若手研究者海外発表奨励賞を受賞しました。

【研究名】Preoperative Simulation for Facial Reconstruction with Rib Cartilage and Fat Graft for Hemifacial Microsomia



廣田友香先生

【研究名】
痕跡唇裂に対するわれわれの治療法の分析



梅田千鶴先生

【研究名】
Preoperative Simulation for Facial Reconstruction with Rib Cartilage and Fat Graft for Hemifacial Microsomia

令和6年度 仁泉会総会 開催報告

令和6年5月26日(日)ホテルグランヴィア京都にて令和6年度の仁泉会定期総会が開催されました。当日の出席者は69名で、午後2時40分より評議員会が開催された後、午後3時より総会が開催されました。

評議員会は、安藤嗣彦理事長(学20期)が議長となり、会員名簿の発送について協議がなされました。総会は大藪博副理事長(学22期)の開会の辞にて始まり、令和5年度中に報告があった物故会員に対して黙祷を捧げました。続いて安藤理事長の挨拶があり、ご来賓のご挨拶へうつりました。母校理事長の植木實先生(学12期)から大学法人についてスライドを使ってご説明をいただきました。佐野浩一学長(学29期)からは、植木理事長、佐野学長、内山医学部長の再任と勝間田病院長の新病院長就任のご報告、1期目の任期を振り返り、医・薬・看の各々の学部の特徴を活かしつつ大学全体の一体感を得ることに大変気を配られ運営をされたこと、指定校推薦に加え公募推薦を導入し、非常に優秀な学生が入学されたこと、学生のカリキュラムの整理を進め、新しい時代の医学教育のゴールドスタンダードを探しながら教育を行っていること、BNCTセンターやLDセンターを前身とした小児高次脳機能研究所といった世界有数の医療研究施設をもっている大学であること、文科省の大学改革総合支援事業のすべてのタイプに採択された日本で唯一の大学であることなどをお話いただきました。内山和久医学部長(学32期)からは、医師国家試験の難度と合格最低ラインが上がっていること、今年の6回生は、コロナ禍で、実習や試験を受けることが出来なかったこと、カリキュラムをずらすことも出来ず可哀想ではあるが、国家試験に合格できるよう支援をしていることを述べられました。また、学生の満足度調査についても触れられ、実習先で同窓の先生が大変優しく迎えてくれていて学生も感謝していることをお話いただきました。続いて勝間田敬弘病院長(特別期)からは、教授ご就任時から20年を経過し、それまでに5名の病院長を副院長として支えられたこと、特に内山病院長の時には大阪北部地震、台風21号、大規模停電があり、災害対策本部に深夜まで待機したこと、南病院長の時代はコロナ禍があり、初期のワクチンがない時の状況についてお話いただきました。また、新病院の建設によりハードについては満足なものが出来たこと、今後はソフトの面を向上させていきたいと展望を述べ

られました。その他、救急医療センターの体制、医師の働き方改革についての現状をお話いただきました。

その後、議事にうつりました。勘田紘一先生(学15期)が仮議長に選出され、仁泉会京都支部会長の河野龍而先生(学35期)を議長に指名し、出席者異議なく承認されました。令和5年度の事業報告、令和6年度事業計画及び収支予算の報告が理事会よりなされた後、総会議案として、令和5年度収支決算及び監査報告、会員名簿の発送の件について審議がなされ原案通り承認されました。総会終了後は別室に場所を移し、5年ぶりの立食対面形式での懇親会が開催され、和気藹々の雰囲気の中、最後に学歌を斉唱し盛会裏に終了いたしました。

当日の安藤理事長のご挨拶とご来賓の植木理事長のご挨拶の要旨を以下に掲載させていただきます。

総会挨拶

仁泉会理事長 安藤嗣彦(学20期)

学部20期の安藤です。本日はご多忙の中、評議員会、総会にご出席をいただきありがとうございます。

母校が出来て今年で97年になります。西日本の私立医科大学で一番歴史が古い大学です。

先日、自分の所属しているテニス部の新入生歓迎コンパに参加して思ったことですが、現在の母校は学力が高く、偏差値が高い事に大変誇りを感じております。

その時に学歌を歌ったのですが、大阪薬科大学と合併し出来た新しい学歌は歌いませんでした。私は、暁映ゆるが馴染みがあり一番だと思いますが、いずれ新しい学歌を歌う人が多くなれば、変わるのかもしれませんが、今しばらくは大阪医科大学の学歌を歌うことを続けていきたいと思っております。本日、評議員会でもお話が出ましたけれども会費の納入率をあげていく必要があります。仁泉会で行っている事業は西医体の援助や奨学金などの学生への援助事業など多くありますが、これからも続けていきたいと思っています。事業を継続していくには皆様のご協力が必要になって参ります。できるだけ多くの先生にご参加いただけるよう、役員一同努めてまいりますので今後ともよろしく願い申し上げます。本日はよろしく願いいたします。(拍手)



令和6年度仁泉会総会 あいさつ

学校法人大阪医科薬科大学 理事長 植木 實(学12期)

本日は仁泉会の総会にお招きいただき、ありがとうございます。皆様には、日頃から様々なご支援を賜っており、心から御礼申し上げます。



今、日本はウィズコロナの時代ですが、一方で世界はVUCA(ブーカ)の時代であると言われています。このVUCAというは、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)という4つの単語の頭文字をとった造語で、元々アメリカで軍事用語として使われ始めたと言われています。将来の

予測ができない不確実で不透明な状態を指します。

日本もそういう時代に入ってきており、円安ドル高が続く、大変なインフレになっています。昨年度の大学の経営も、収入は上がっておりますが、支出が非常に多い状態であり、赤字にはなりませんでしたが、油断のできない経営でした。

本日は本法人の方向性や経営面についてお話をさせていただきたいと思っております。

【図1】は今年の入学式の様子です。医学部生、薬学部生、看護学部生、そしてそれぞれの大学院生の新入学生約560名、2階席には約830名強の保護者が来ており、総勢約1,400名が参加して行われ、非常に大きな式典でした。

【図2】は本法人の事業活動収支差額の年度別推移ですが、一昨年度は補助金収入があり、46億円という大きな収益になりました。昨年度はコロナ関連や病院の補助金もなくなり、支出が大きくなり、10億円程度となりました。今年度は収益を増やしたいと考えておりますが、多くの事業が同時進行していますので、支出も増えていくことが予測されます。

【図3】は、本法人の純資産・金融資産・借入金の推移です。棒グラフは純資産を表しています。上段の

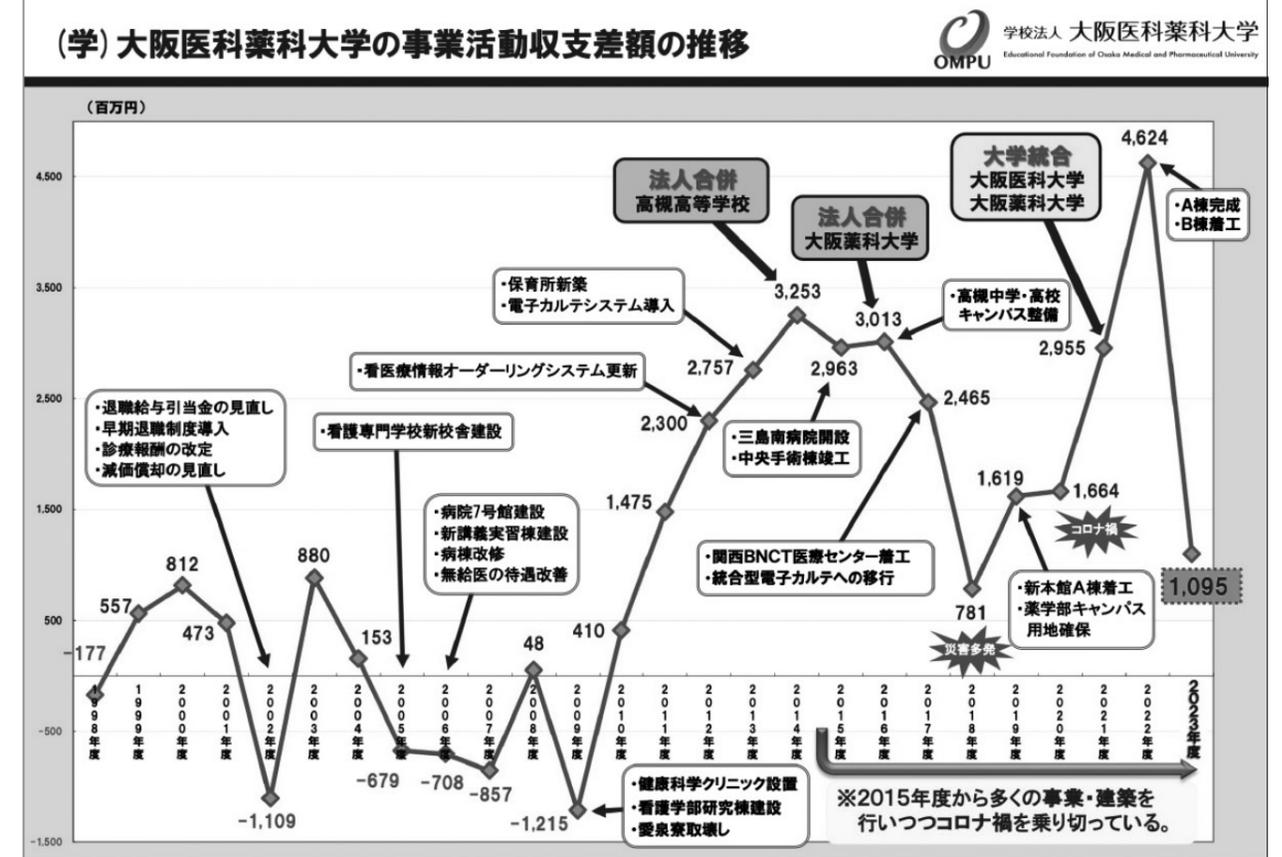
【図1】



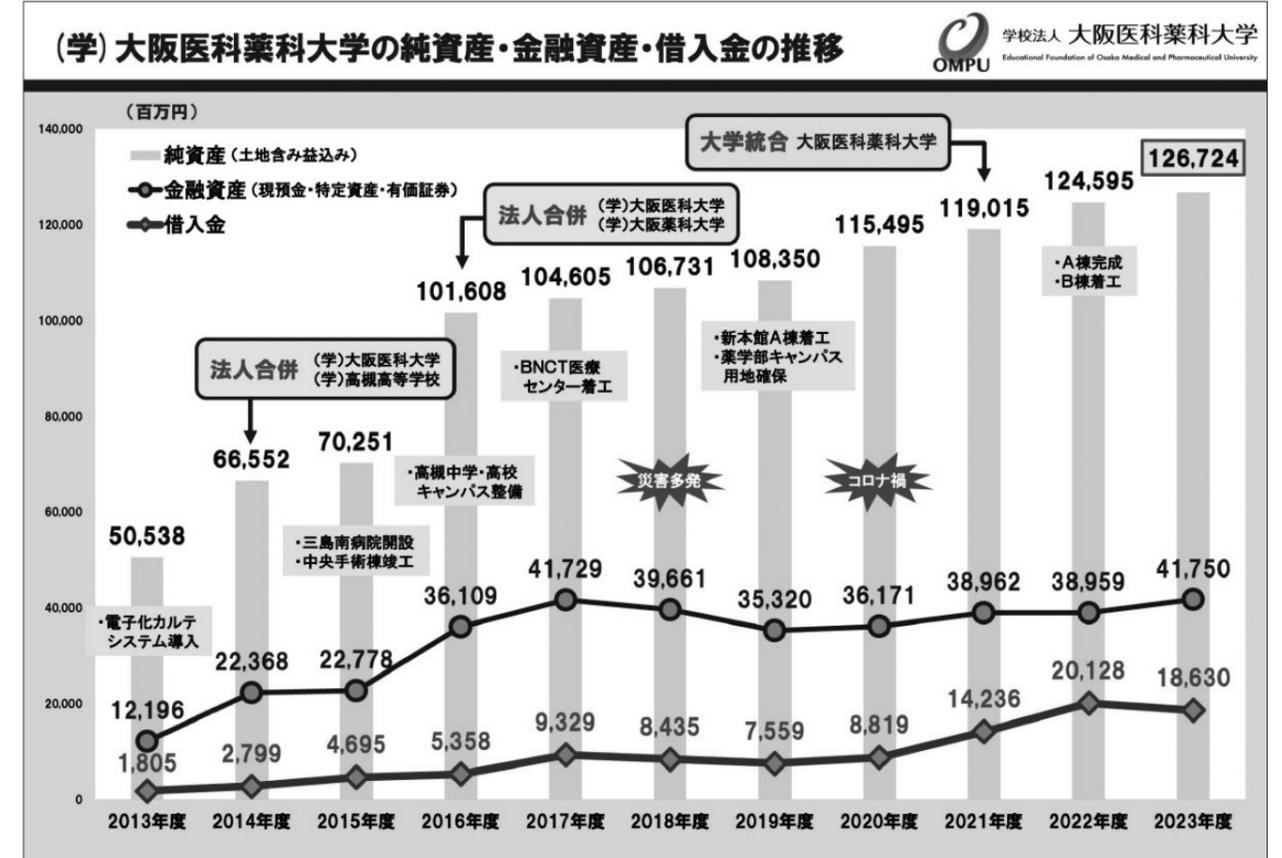
2024年度 入学宣誓式(医学部・薬学部・看護学部)合同開催

学校法人大阪医科薬科大学
OMPU Educational Foundation of Osaka Medical and Pharmaceutical University

【図2】



【図3】



折れ線グラフはいつでも使える金融資産を示しており、410億円程ございます。下段の折れ線グラフは借入金で186億円程ありますが、健全な財務状態といえます。来年は施設建設等で借入金は増える予定ですが、心配はないと考えております。

続きまして、私立学校法の改正【図4】についてご説明申し上げます。来年7月1日に私学法改正法が施行され、理事、監事、評議員といった方々の権限分離と整頓が行われます。特に、理事と評議員の兼職が禁止になり、評議員会の権限が強化され、評議員会の許可がないと大きな事案は決定されなくなります。理事・評議員の数も減員となり、監事も常任監事を置くことが求められ、会計監査人も設置することが義務付けられました。

次に、本学の研究と臨床研究の柱として、2016年におよそ100億円をかけて建設した関西BNCT共同医療センターは、2018年に開院しました【図5】。本学以外でも同様の施設が建設されましたが、機器がうまく作動しないなど不具合が起こっており、本学と東北の病院だけが稼働しております。

BNCTの稼働、即ち2020年の再発頭頸部がん保険診療適用から今年で4年目を迎え、年々症例数も増えております。本センターでの治療結果は非常に効果的で、

ほとんど治らないものが完全に治ったという完全奏効率は44%、部分奏効も含めた奏効率は80%を示しております。現在、中国、韓国、台湾といった国がこの機械の導入を希望しており、中国では海南島にすでに建設が決まっております。中国は日本のように規制が厳しくないと思われるので、本学に先行して研究が進むのではないかと心配しております。

また、病院新本館の建築状況ですが【図6】、A棟は一昨年7月に開院し、非常に順調に稼働しております。現在はB棟を建築しており、今、地下階が出来上がり、これから地上部の1階から作られますが、ここから建設のスピードが上がり、年内には最上階の12階まで建ち上がる予定です。

【図7】は完成イメージです。出来上がりますと正面玄関が南側に設置され、同一臓器を診る内科と外科は同じフロアでの受付、診療になります。12階にはVIPルームができ、1階にはエントランスホールを設置するなど、いろいろ新しい構想を持って設計されていますので、是非見学していただきたいと思っております。

【図8】は病院新本館に導入する外来患者誘導システム「HOSPISION」の概要です。このシステムを活用することで、来院の到着確認から呼び出しまで自動化さ

【図4】

私立学校法の改正 (2025年4月1日施行)

学校法人 大阪医科薬科大学

私学法改正の概要

執行と監視・監督の役割の明確化・分離
理事(会) 監事 評議員(会) → 権限分離と整頓

- 役員評議員選任委員会の設置
- 監事の評議員会による選解任
- 理事と評議員の兼職禁止、理事・評議員数の減員
- 評議員会の権限強化
- 会計監査人による会計監査の制度化

【図5】

関西BNCT共同医療センター・PETセンター

2018年3月竣工

学校法人 大阪医科薬科大学

3F	管理ゾーン 機械室・屋上	
2F	BNCT シミュレーション	PET-CT
1F	加速器 BNCTシステム	PET製剤用 サイクロトロン
B1	RI処理施設など	

■ BNCT治療件数(累積) 310件 ※2020年6月～2024年5月 ※見込み (48か月累計) 四半期累計推移

【再発頭頸部癌 治療実績】

再発頭頸部癌への高い奏効率

再発頭頸部癌 治療効果

奏効率 80% (CR: 44%, PR: 36%)

■ CR 安定 14% ■ PR 部分奏効 36% ■ SD ■ PD/NE 6% 44% 完全奏効

2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

【図6】

大学病院新本館 B棟 建築 2025年7月 開院

学校法人 大阪医科薬科大学

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
工程	6月 解体	8月 A棟建設 2022年5月竣工	5月 7月 移転	9月 解体	B棟建設	5月 7月 移転	解体	新管理棟(講堂)建設(予定)		

完成予想パース

2024年5月16日撮影

工事は地上1階に着手(2024年5月現在)

【図7】



【図8】



れ、敷地内であればどこにいても呼び出しが可能となります。会計についても、少ない待ち時間で済ませることができるようになります。

次に、キャンパスの耐震化100%整備事業ですが【図9】、文部科学省からキャンパスの耐震化100%を2028年までに達成するよう全大学に通達があり、本学では現在の動物舎と法医解剖施設の耐震化が必要になりました。そこで、旧学生会館跡に1階は法医解剖・研究施設、2階は動物舎の機能を持つ病態モデル先端研究施設の第1研究館を新たに建築することにし、去る5月に地鎮祭を執り行い、およそ1年の工期で完成の予定です。

【図10】は大学東側にある八丁西町交差点から見た第1研究館の外観イメージです。大阪医科薬科大学の施設であることを強調したデザインで、構内から見ても洗練された印象です。

【図11】は、現在の実験動物棟や法医解剖棟を来年後半に取り壊した後の、八丁松原を東側から見た風景のイメージです。歴史資料館が大学の東前面に出た大学らしい風景となります。

本学の発展の要点についてお話をさせていただきます【図12】。大学は社会貢献の継続が非常に重要な使命です。大阪医科薬科大学においては、「魂を入れた教

育研究」「高度で安全な医療の実践」「財政の好循環」「ガバナンスの担保」がその要素で、さらには「SSD(自己研鑽)の実践とインテグリティの涵養」などをしっかり実行していかなければなりません。本法人の事業は全て社会貢献に繋がり、社会へのサステナビリティは法人自らのサステナビリティに繋がると考えております。

今、私が最も実現したいと考えていることは「温かい大学病院」づくりです【図13】。すでに接遇心向上のためのホスピタリティ教育・研修を行っており、また患者様の要望がどこに向き、何に不満を抱いているのか、患者様から寄せられた投書や様々なアンケートを分析し、各部署ではディベートを通して重点確認を行っております。常に温かい接遇を実践し、職員のインテグリティ(誠実性)の向上を図ります。

現在、本法人は中長期目標にスーパースマート教育・研究・医療の実践を掲げています【図14】。ここでいうスーパースマートは、機能が非常に高いことを指しています。今年スマートワーク・満床経営と温かい病院づくりを非常に大事なこととしてスローガンの1つに定め、成し遂げていきたいと考えております。スマートワーク経営とは教職員の能力を最大限に活用し、多様で柔軟な働き方の実現によりイノベーションを生み、新たな市場

【図9】



【図10】

第1研究館の着工 ～キャンパス耐震化100%整備事業～



2025年8月オープン予定

八丁西町交差点



学校法人 大阪医科薬科大学
Educational Foundation of Osaka Medical and Pharmaceutical University

2階 病態モデル先端研究施設
1階 法医解剖・研究施設

【特徴】

- ・ 学生が法医学分野に興味を持てるような明るく開かれたイメージ
- ・ 施設周辺の環境保全に配慮し、騒音や悪臭を防止
- ・ スタッフ・生体被験者と、ご遺体・警察関係者の出入り口を分けて設置
- ・ カードリーダー方式等のセキュリティシステムを導入

【図11】

第1研究館の着工 ～キャンパス耐震化100%整備事業～



東側(八丁松原)からの想定風景イメージ



学校法人 大阪医科薬科大学
Educational Foundation of Osaka Medical and Pharmaceutical University

2025年度中に実験動物センター及び法医解剖棟(第2研究棟)は解体・撤去予定

【図12】

(学)大阪医科薬科大学の発展への要点



魂を入れた教育・研究 高度・安全医療の実践

SSD(自己研鑽)の実践
インテグリティの涵養

社会の公器
(学)大阪医科薬科大学
社会貢献の継続
*SR/ISO26000規格

SDGs活動
*国連提唱

本学法人の信条
社会へのサステナビリティは、
法人自らのサステナビリティに繋がる

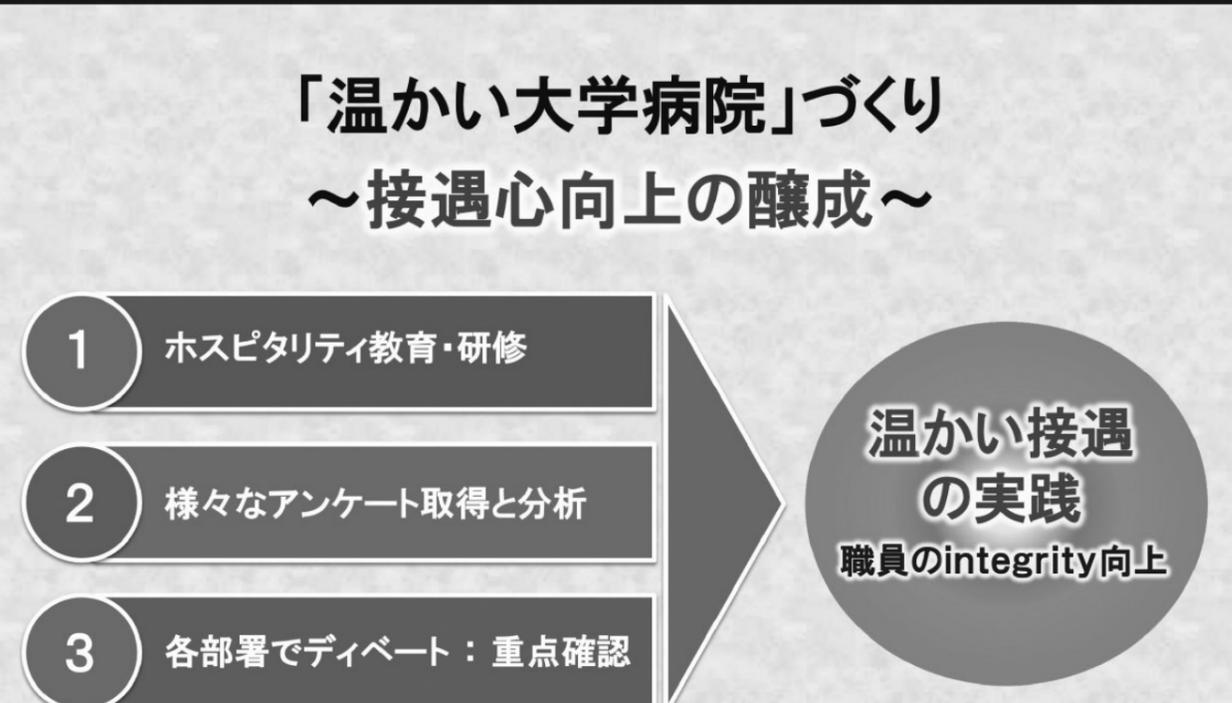
財政の好循環 ガバナンスの担保



学校法人 大阪医科薬科大学
Educational Foundation of Osaka Medical and Pharmaceutical University

【図13】

「温かい大学病院」づくりを目指す



「温かい大学病院」づくり
～ 接遇心向上の醸成～

1 ホスピタリティ教育・研修

2 様々なアンケート取得と分析

3 各部署でディベート：重点確認

温かい接遇
の実践
職員のintegrity向上



学校法人 大阪医科薬科大学
Educational Foundation of Osaka Medical and Pharmaceutical University

【図14】

法人スローガン



学校法人 大阪医科薬科大学
Educational Foundation of Osaka Medical and Pharmaceutical University

中(長)期目標 Super Smart 教育・研究・医療の実践

2024年 法人スローガン

※ **スマートワーク・満床経営と「温かい病院」づくり**

病院新本館B棟・第1研究館の建築の推進

三師国家試験合格率と大学進学率の向上
(医学部・薬学部・看護学部) (高槻高等学校)

VUCAの時代を乗り越える・生き抜く

※ **スマートワーク経営**
~日経グループの定義~

教職員の能力を最大限に活用。多様で柔軟な働き方の実現により人材を最大限に活用することでイノベーションを生み、新たな市場を開拓し続ける好循環を作る。

を起し続ける好循環を作ることで、本法人でもそれを実践したいと考えております。そして、満床経営では、入院期間の短縮といったことはあまり言わずに運営と経営をしていきたいと思っております。加えて、B棟及び第1研究館の建築を進め、三師国家試験合格率と高槻高等学校の大学進学率の向上を目指して今年は頑張っております。

最後に、今後の本法人の近未来展望についてお話をさせていただきます【図15】。

2016年に中央手術棟が竣工し、2018年に関西BNCT共同医療センターが完成しました。2020年には高槻中学校・高等学校のキャンパス全面整備事業の完了、その後、大学の統合があり、2022年に病院新本館A棟及び中央エネルギー棟が完成しました。救命救急センターも開設され順調に稼働し、非常に患者数も増えています。来年2025年は、B棟に加え第1研究館も完成いたします。そういった中で大学も大きく変貌を続けており、2027年には大阪医科大学の創立100周年を迎えます。

大阪医科薬科大学はこれからも高度な教育を行い、人間性豊かな良質の医療人の育成を目指して、教職員一同が一層大学の発展に努力してまいります。

仁泉会の皆様におかれましては、今後共ご支援をお願い申し上げます。総会のご挨拶にさせていただきます。本日はお招きいただき、ありがとうございました。

【図15】

(学) 大阪医科薬科大学の・本部キャンパス近未来展望



学校法人 大阪医科薬科大学
Educational Foundation of Osaka Medical and Pharmaceutical University

2029年 大阪薬科大学創立125周年

2027年 大阪医科大学創立100周年

2025年

- 新管理棟・講堂 完成
- 病院全建替え事業 完了

2022年

- 病院新本館B棟 完成
- 第1研究館 完成

2021年

- 病院新本館A棟、中央エネルギー棟 完成
- 救命救急センター(三次救急事業)開設
- 大学統合(大阪医科大学・大阪薬科大学)

2020年

- 2020年 高槻中学校・高等学校創立80周年
- 高槻中学校・高等学校 キャンパス全面整備事業 完了

2018年

- 次世代がん治療施設
- 『関西BNCT共同医療センター』竣工

2016年

- 中央手術棟 竣工



令和5年度 事業報告書

1. 学術研究振興援助事業

令和5年度は申請が7件あり、それに対し助成を行い、仁泉会ニュースにて報告を行った。

	学会名（申請順）
1	第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会
2	第58回日本小児腎臓病学会学術集会
3	第46回日本顔面神経学会
4	ISOTT (International Society Transport to Tissue)
5	第48回日本足の外科学会学術集会
6	日本脊椎関節炎学会第33回学術集会
7	日本医療・病院管理学会 第422回例会

2. 奨学金貸与事業

令和5年度に採用された奨学生は7名であり、各々年額60万円の奨学金を貸与した。

令和6年3月末日の奨学金貸与残高は30,710,000円である。

3. 本部諸事業に関する事項

1) 大阪医科薬科大学への後援事業

- ①母校の100周年記念活動の広報協力を行った。
- ②令和5年度卒業生山口花奈さんに対して仁泉会理事長賞を授与した。
- ③母校の活動報告として、学報及びOMCニュースを全会員に向け発送した。
- ④在学生に「学生生活虎の巻」と題した講演会を年1回行った。
- ⑤学園祭に対し援助を行った。
- ⑥母校医師国家試験対策に援助を行った。
- ⑦西医体活動への援助を行った。

2) 会員の福利厚生への事業

- ①会員の動向把握を行い、物故会員に対して供花料及び弔電を送った。
- ②令和5年度の傘寿会員に対して傘寿祝の記念品を贈呈した。
- ③能登半島地震で被災された会員に飲料水の提供と見舞金を送った。

3) 仁泉会組織強化に関する事業

支部会、クラス会開催にあたり、案内発送代行の事務支援を行った。

4) 全国私立医科大学同窓会連絡会との連携事業

- ①第30回全国私立医科大学同窓会連絡会「西部会」に役員を派遣した。

- ②第31回全国私立医科大学同窓会連絡会「全国会」に役員を派遣した。

5) 広報事業

- ①機関紙「仁泉会ニュース」を年6回発行した。
- ②フェイスブック及びホームページにて、各種案内及び母校の情報提供を行った。

6) 会員に関する事項

- ①新入会員に関する事項
令和5年4月入学生は112名であり令和5年度入会者は89名である。
- ②会員数に関する事項
令和6年3月末日現在の会員数は5976名である。そのうち住所不明等で郵送を停止している会員は393名である。

③物故会員に関する事項

令和5年度に届出のあった物故会員は72名である。

④会費免除者に関する事項

令和6年3月末日現在の免除会員数は569名である。

7) 役員及び会議に関する事項

①理事会役員に関する事項

令和6年3月末日現在の役員は次の通りである。
理事長1名、副理事長3名、常任理事6名、理事11名、監事3名、参与8名 合計32名

②会議に関する事項

令和5年度に開催した会議及び役員が出席した会議は次の通りである。

総会1回、評議員会1回、理事会6回、監事会1回。支部会等17回

以上



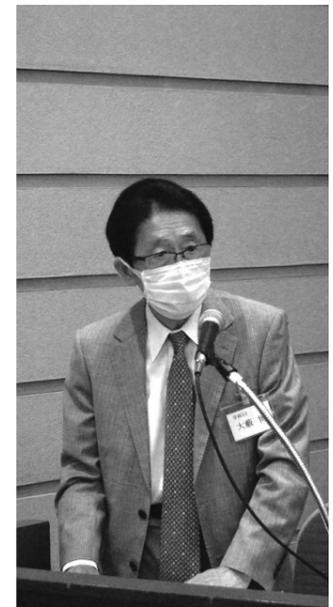
令和5年度収支決算書総括表

自令和5年4月1日～至令和6年3月31日決算

(単位 円)

科目	合計	一般会計	基金特別会計
I 収入の部			
基金収入	1,271	0	1,271
入会金収入	890,000	890,000	0
会費収入	20,540,000	20,540,000	0
学生会費収入		1,584,000	0
寄付金収入	356,603	251,421	105,182
雑収入	1,863,085	1,859,886	3,199
奨学金返還金	4,080,000	0	4,080,000
繰入金収入	1,010,000	1,010,000	0
退職金積立金取崩し収入	1,943,204	1,943,204	0
当期収入合計 (A)	32,268,163	28,078,511	4,189,652
前期繰越収支差額	59,104,506	30,295,002	28,809,504
収入合計 (B)	91,372,669	58,373,513	32,999,156
II 支出の部			
事業費	14,165,334	9,965,334	4,200,000
管理費	15,768,816	15,759,486	9,330
特定預金支出	5,711,557	0	5,711,557
繰出金支出	2,010,070	1,000,070	1,010,000
当期支出合計 (C)	37,655,777	26,724,890	10,930,887
当期収支差額 (A) - (C)	-5,387,614	1,353,621	-6,741,235
次期繰越収支差額 (B) - (C)	53,716,892	31,648,623	22,068,269

※科目別収支、正味財産増減計算書、財産目録等につきましては仁泉会ホームページ、活動報告「令和6年度総会報告」記事内の令和6年度総会資料をご参照下さい。



総会及び懇親会の様子



佐野浩一 学長



内山和久 医学部長



勝間田敬弘 病院長



松本秀仁 薬学部同窓会会長



河野龍而 京都支部会長



令和6年度版会員名簿の配布について 会費納入ご協力のお願い

拝啓 梅雨の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は会務運営にご協力賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、現在、仁泉会では令和6年度事業として会員名簿の作成をしております。これまで会員名簿は同窓生の絆の証として、4年に1度作成し、全会員へお送りさせていただいて参りました。しかしながら制作費用の高騰や郵送料の値上げもあり、費用をおさえるべく理事会でも手を尽くしましたが、前回の2倍近く制作発送に費用がかかる見込みとなっております。

以上の理由から、全会員への名簿送付について理事会では、本年度の評議員会及び総会にて現状をご報告することを決定し、本年の評議員会及び総会においてお諮りをさせていただきました。長時間様々なご意見を頂戴いただきましたが、協議の結果、会費をお納めいただいている会員に不公平であるというご意見が多数あり、直近の8年間継続して会費をお納めいただいていない会員の先生には配布を控えさせていただくこととなりました。

つきましては、物価高騰、収入減少の折、誠に恐縮ですが、これを機に会費の納入にご協力の程よろしくお願い申し上げます。

個別の会費の納入状況につきましては、仁泉会事務局までお問合せをいただければご確認いただけますのでよろしくお願い申し上げます。

大阪医科薬科大学仁泉会
理事長 安藤 嗣彦

名簿登録確認書 受付確認のお知らせについて（お詫び）

前号の仁泉会ニュース55巻3号に掲載させていただきました「会員名簿記載事項確認書の受付確認のお願い」につきましてお問い合わせを多数頂きました。

前回のお知らせは、事務局FAXが混み合い受信ができなかった可能性があることから、「名簿登録内容に変更がある」もしくは「名簿に掲載してほしくない項目がある」ことを4月16日までに事務局にお知らせをいただいた先生を対象にご確認をお願いしたものでございました。

変更がなく、名簿非掲載のご希望がない先生につきましては、登録確認書をお送りいただく必要はございません。現在のご登録内容で名簿にご掲載をさせていただきます。

この度は誤解を招くご案内となり、先生方にご心配とご迷惑をおかけし大変申し訳ございませんでした。お詫び申し上げます。

（事務局編集係）



大阪医科薬科大学 平成元年卒同窓会開催のお知らせ

日時：2024年8月31日（土）18時 開宴

場所：ザ・リッツ・カールトン大阪 4階 ボールルーム ウェストルーム

大阪市北区梅田2丁目5番25号

TEL 06-6343-7000

ご案内を郵送またはメールにてお送りしております。
お手元に届いておられない先生がおられましたら、仁泉会事務局までお知らせ下さい。

支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net



祝・入学

令和6年度

大阪医科薬科大学入学宣誓式

令和6年度の入学宣誓式は、令和6年4月4日（木）高槻城公園芸術文化劇場トリシマホールにて挙行されました。医学部110名、薬学部299名、看護学部85名、大学院医学研究科45名、薬学研究科6名、看護学研究科16名が入学されました。当日の佐野学長の式辞を掲載させていただきます。

学長式辞

大阪医科薬科大学学長 佐野浩一

花細わし春

大阪医科薬科大学
医学部百十名、薬学部
二百九十九名、看護学
部八十五名、大学院医
学研究科四十五名、薬
学研究科六名、看護学
研究科十六名、新入生
の皆さんご入学おめで
うございます。ご家族や



保護者の皆様におかれましても、さぞお喜びのことと存じ、お祝いを申し上げます。また、年度初めの諸事繁忙の中、本学の新生のためにご臨席くださいましたご来賓の皆様にご心よりお礼申し上げます。

さて、新入生の皆さんが入学した大阪医科薬科大学は、それぞれ約一世紀の歴史と伝統のある大阪医科大学と大阪薬科大学が新しい時代における多職種連携教育の重要性に鑑み、学校法人の合併の後に大学を統合するという日本でも先進的な取組みによって、健康医療先進都市・高槻市に誕生した大学です。統合前のそれぞれの大学は、建学当時の社会の求めに応じ、国際的視野並びに高い専門性をもつ医療人を養成し、世に送り出すために設立されました。

その後、日本の首都を襲った関東大震災をはじめとす

る各地の大震災、室戸台風をはじめとする多くの大風水害、度重なるインフルエンザの世界流行やコロナ禍など新興再興感染症の流行を経験しつつ、更に太平洋戦争の勃発と敗戦という幾多の困難を乗り越え、優秀な医療人や研究者などを輩出してきました。

先進的の大学統合によって生まれ変わった本学は、世界で唯一、大学として最先端のがん治療BNCTの施設を設置し、また、日本の先導的立場にある小児高次脳機能障害の総合的教育研究施設を置いて研究を進め、世界有数の医療系総合大学を目指しています。

また、新しい時代の大学を目指して政府が推進する「私立大学等改革総合支援事業」において、この度4つのタイプと2つのサブタイプのすべての事業が採択されたのは、六百校ある日本の私立大学のうち唯一、本学のみであり、皆さんは、日本有数の私立大学に入学されたといっても過言ではありません。

しかしながら、皆さん自身の真の価値は、このような特色を発揮する本学に入学したことをもって決まるものではありません。大学では、専門領域の知識や技能を習得すると同時に、それらを元にした基本的な考え方を学びます。また、大学院では、専門領域を越えて、科学の総体、地域、世界、宇宙にまで思考の範囲を広げ、真理を追究することを学びます。先ほど、本学は日本有数と申し上げましたが、それは皆さんが学ぶ環境が恵まれているということで、皆さんの真の価値は、その恵まれた環境を手にしたことで決まるのではなく、今申し上げた学部・大学院の恵まれた環境の下で皆さん自身が如何に学ぶかで決まります。

皆さんが本学で学ぶとき、心に留めて欲しいことがあ

ります。本学の建学の精神は、「国際的視野に立った良質の教育・研究および医療の実践を通して至誠仁術を体現する医療人を育成する」ことで「至誠仁術」を学是としています。孔子は「仁」を追い求めるために一生をなすべきことは「恕」を心掛けることであるとしています。「恕」というのは、他を思い遣ることであるとして、常に他を思い遣るよう心掛けておれば、やがて、「仁」の境地に至り、意識せずして自然に他を思い遣ることができるようになるというのです。孟子は、「仁」に通じるものとして「誠」を唱えています。「誠」に至ることができれば、すなわち、至誠は心あるすべての人に通じるとしています。

私たちが努力しても短期間にそのような境地に至るのは難しいことですが、そうありたい、そうあるにはどうすればよいのかを考え続け「恕」を実践することが大切だと考えます。本日皆さんが入学を許可された本学で、勉学に勤しんで得る成果は自分自身の価値としてだけでなく、皆さんがやがて出会うであろう患者さんやそのご家族を思い遣るときに現れます。患者さんやそのご家族は、「なぜ私が…」「なぜ私の愛する人が…」と病という理不尽に苦しみ、時には自分自身を責め、時には他を責めることもあります。そのような患者さんやご家族が病という現実を受け入れるには皆さんの思い遣る心が必要です。

本日の式次第にある学歌をご覧ください。「病む人にこそ耳傾けよ」「病む人とこそともにあるべし」「病む人をこそやさしく包め」とあるのはそういうことです。これは、臨床の場だけでなく、教育研究あるいは福祉・行政など如何なる場においても必要な心掛けで、特に医学・薬学・看護学を極めるために皆さんの大切な基本となる



ことを心に留めるようお願いします。

ここで私が自慢とすることを聴いていただきたいと思います。私の一番の自慢は本学の素晴らしい教育研究環境にもまして、優秀な教員や職員そして皆さんの先輩たちがいることです。皆さんが学生生活で悩むこと困ったことがあれば、身近な教員や職員、先輩に相談して下さい。そして、いっしょに考えて下さい。嬉しいことがあれば、伝えて下さい。そして、ともに喜んで下さい。そうすれば、皆さんの学生生活は豊かなものになると信じています。

結びとして、本日、入学を宣誓した皆さんに、改めて心からお祝い申し上げるとともに、本学の恵まれた環境の下で至誠仁術を目指して自らの価値を創造し、磨き上げていただきますようお願いして式辞といたします。

清浄明潔

令和六年四月四日
大阪医科薬科大学
学長 佐野浩一



支部だより ●●●●

仁泉会大阪市北区支部総会 開催報告

文責／太田祥彦（学38期）

大阪梅田の東急REIホテル2階宴会場にて仁泉会大阪市北区支部総会を4年ぶりに開催しました。末澤支部長（学19）の開会のご挨拶ののち、安藤理事長（学20）のご挨拶をいただきました。5年分の会計報告、末澤先生から太田祥彦（学38）への支部長交代、また太田祥彦から古林圭一先生（学49）への会計交代の議事を経て古林光一先生（学21）の乾杯のご発声

をいただき宴席が始まりました。参加者全員の現況報告に、それぞれの先生方の意外な履歴を知ることでもできました。また同級生からの学生時代の楽しいエピソード披露などもあり、懐かしい時を思い出すことができました。その後全員で記念写真を撮って来年の再会を約束してお開きとなりました。



上段左から 中村素行（学40）、宮本信一（学33）、太田祥彦（学38）、忌部尚（学54）、高木雄久（学39）
中段左から 渡辺徹也（学35）、藤尾圭司（学34）、東川雅彦（学34）、三上典子（学51）、古元淑子（学47）、恩地浩之（学40）、古林圭一（学49）
下段左から 安田守孝（学34）、片岡晃哉（学26）、古林光一（学21）、安藤理事長（学20）、末澤慶昭（学19）、本出肇（学34）、勝本善衛（学23）、千福貞博（学32）

クラス会だより

春の49杯（第84回）

文責／竹中正純（学23期）

今回の49杯は名門西宮カントリー倶楽部のファミリーオープンコンペに参加するかたちで行いました。新緑がことに美しい5月4日（土）快晴まさにゴルフ日和でした。

名物コースによく見られる砲台グリーン、そしてアンジュレーションのつよい難しいグリーンに皆さん翻弄されました。一番成績が良かったのは、近藤君で31位（参加者150名中）になったのが最高という結果でした。グロスのスコアで100切りしたのは49杯実力者の二人、明石君と近藤君で、後は残念ながら100越えでした。それでも元気に楽しくラウンドできたこと、本当に有難いと思っています。

次回はクラス会の翌日、10月13日（日）に瀬田カントリークラブを予約しています。次回もまた皆さんと再会し、楽しい時を過ごしたいと思っています。

城山三郎氏の言葉「ゴルフをしなさい。10年長生きできます！」にはいつも触発されてゴルフを楽しみ頑張っています。

尚、今回も西宮カントリーのメンバー假野、中田君にいろいろお世話になりました。誌面をお借りし御礼申し上げます。誠に有難うございました。



学23期生(昭和49年卒)同窓会 およびゴルフコンペのお知らせ

卒後50周年記念同窓会を下記の要領で開催いたします。

日時：2024年10月12日(土)18:00
場所：グランビア京都ホテル(京都駅ビル内)
形式：テーブル席バイキング(飲み放題)、芸舞妓アトラクション
同伴：可
宿泊：ホテルは各自でおとり下さい。
世話人：近藤敬一郎、櫻本邦男、梶野興三(090-8888-5080)

49杯ゴルフコンペのご案内
日時：2024年10月13日(日)
場所：コース・スタート時間 未定
同伴：可
世話人：竹中正純(080-5346-0581)

出欠のお問い合わせは、8月末頃に往復はがきをお送りいたします。

参加者（敬称略）：
明石、梶野、梶野（香代子）、假野、假野（加奈代）、近藤、櫻本、竹中正純、中田、安井、山本

クラス会だより

学 26 期同期会報告

文責／木戸友幸（学 26 期）

令和6年5月11日に我々昭和52年卒（学26期）の同期会をホテル・アベストグランデ高槻で開催しました。これは、高槻で開業を続けている西君のアイデアです。これまでの同期会のほとんどは、大阪や京都のホテルで行われており、高槻で行われるのは初めてでした。ここは数年前にJR高槻駅北側すぐのところに新規オープンしたホテルで、交通アクセスもよく、母校にも近いので、26名の出席者の数名は会の前に高槻入りして、様変わりした母校見学をして満足してもらえたようです。フレンチのコースも、大阪や京都の大ホテルに負けずとも劣らない美味なものでした。

さて、我々26期も全員が70代に突入しています。私が全員の近況報告の司会を務めたのですが、出席者の2割ほどは医業をほぼ完全にリタイアしていました。しかし、リタイア組も多くは多彩な趣味を持っており、ゆったり落ち着いた生活には満足しているようでした。半数くらい

は、医業を継続しており、やはり年の功もあり、地元の医師会や各種団体の幹部を務めており、活動的な日常を語ってくれました。年齢上、自らの病気の話や子や孫自慢が多いかと予想していたのですが、そこは嬉しい予想はずれで、一人一人、個性のある近況報告をしてくれ、飽きることがありませんでした。

出席者の半数くらいが、二次会に参加してくれました。残念ながら、このホテルにはバーはないので、歩いて3分のところにある居酒屋を会場にしました。これも地元をよく知る西君のアイデアです。ここでも、広い個室で2時間、思い出話しや近況報告に花が咲きました。

ということで、2年ぶり卒後47年目の同期会は、天候にも恵まれ夜10時に無事お開きになりました。

参加者（敬称略）：

石丸徹郎、巽孝彦、行村純、上田直子、中島正之、弓場通正、枝重恭一、西律、改井修、西田進一郎、粕谷正史、長谷川真知子、片岡晃哉、北島義久、濱田宏、木戸友幸、深水陽子、黒川義澄、水谷均、水野雅夫、駒越春樹、宮地芳樹、斎藤隆晴、矢田守男、島田徹、山本祐三



令和6年5月11日 大阪医科大学 昭和52年卒業同期会 於 ホテルアベストグランデ高槻

仁泉ひろば

jinsen-park

下山事件

文責／下山誠（学6期）

それは忘れもしない私が中学の時の夏であった。7月の上旬であったと思うが、警察から電話があり、国鉄（今のJR）総裁の下山貞則氏の轢死体が発見されたとのことで、早速、貞則氏の兄さんの所へ、それを知らせに行った。当日、貞則氏は東京三越デパートに入り、その後、姿を消したという。

何故、私の方に貞則氏の死亡の知らせが先に入ったかは明らかではないが、貞則氏と私の母が、従妹同士だったからだと思う。

貞則氏が自殺か他殺か、あるいは何故死亡したのかについては、諸説芬々として、いまだに分からないようであるが、貞則氏の鞆丸にうっ血が見られることから、恐らくは他殺であろうと考えられた。自殺の場合は、殆どうっ血は見られないらしい。

貞則氏が自殺とすれば、何故死を選んだのかについては、当時のGHQ主導による国鉄職員の大量解雇を余儀なくされた貞則氏は、精神的に苦痛のどん底にあり、それが原因で自殺に追い込まれたという説がある。

轢死体が発見された日の午後、貞則氏はある旅館に、暫く休憩させてくれと言って休まれたと、旅館の女将は言っていたようである。この時、警察は本当に貞則氏かどうかを確かめるために、貞則氏の写真を数枚女将に見せたが、女将は、この写真に間違いはないといったので、貞則氏が、この旅館で休憩したのは確かだと警察は判断した。

次に貞則氏が生存しているときに線路に運ばれたか、死後運ばれたかについては、当時の東京大学法医学の見解では、死斑がないので死後線路に運ばれて、列車にひかれたものと判定した。また、死体を運ぶには大変困難な環境で、何でも細いあぜ道を通らねばならないとのことである。この道をどうして死体を運んだかも疑問であったらしい。大柄な貞則氏を運ぶには、一人では無理で、数人が必要となり、細いあぜ道を数人の人が通るのは無理とか。

とにかくミステリアスな事件である。

仁泉ひろば

jinsen-park

～米寿を迎えて雑感～

文責／丸山俊郎（昭和38年卒／学12期）

今年（令和）2月 湯沢高原ヘスキーに行ってきた。2月末なのでゲレンデも雪と言うより氷のようにザラザラであり良いコンディションではありませんでした。

多分30～40年ぶりで滑るので、へっぴり腰のボーゲンで転ぶことなく滑りましたが、後から滑り降りてきた小学3年生以下幼稚園の孫達に追い抜かれながら無事滑り降りることができ、内心ホッとしました。白髪の爺さんでへっぴり腰でボーゲンは誰もおらずスノーボードが多かったようです。最近あの有名な三浦雄一郎氏が八甲田ヘスキーに出かけたニュースがありました。彼は確か90歳を越えているはずですが、たいしたものですね。

来年行けるかどうかわかりませんが、行きたい希望はあります。



仁泉ひろば

jinsen-park

大阪南部での精神科病院で心身含めた総合的な精神科医療を目指す。

文責／横田伸吾（学36期）

精神科医療というと、日本における入院病床が世界と比べて異常に多いという指摘から話が始まる事が多い。日本の殆どの精神科病床は精神科特例により、医師对患者の比率が1対48という数字にされており、安上がりにした行政と人員確保の難しい医療現場との暗黙の了解でこの状況は続いており、諸外国で施設とされているものが病院とされているというのが真相であると私は考えている。言い換えれば、精神科医療と行政の共犯的な状況であると同時に相手に責任を押し付けるという関係ともいえるだろう。また、日本では精神科医療の殆どを民間が担っていることも、問題を複雑化している。

大阪の南部の政令指定都市堺市にある阪南病院は大阪医科薬科大学精神神経学教室との関連が深い。現在の院長である黒田先生は大阪医科大学（現大阪医科薬科大学）出身（30期）であり、私にとって大学医局の先輩でもある。私はそこでかれこれ19年間働いている。

一方で阪南病院は大学医局から独立して採用活動を行っている病院でもある。医師不足で苦しんだ2007年頃から独自に専攻医（当時は後期研修医）を募集し、専門医への道を歩んでいただくという方法を継続している。

その昔、大阪で精神科医療は日中のみに行われるものであり、夜間は病院に電話もつながらない事が多かった。一般救急を受けていた総合病院の精神科で働いていた筆者は、空きベッドも無い状況で「入院は必要ありませんから」という消防隊の言葉に騙されて外来で具合の悪い

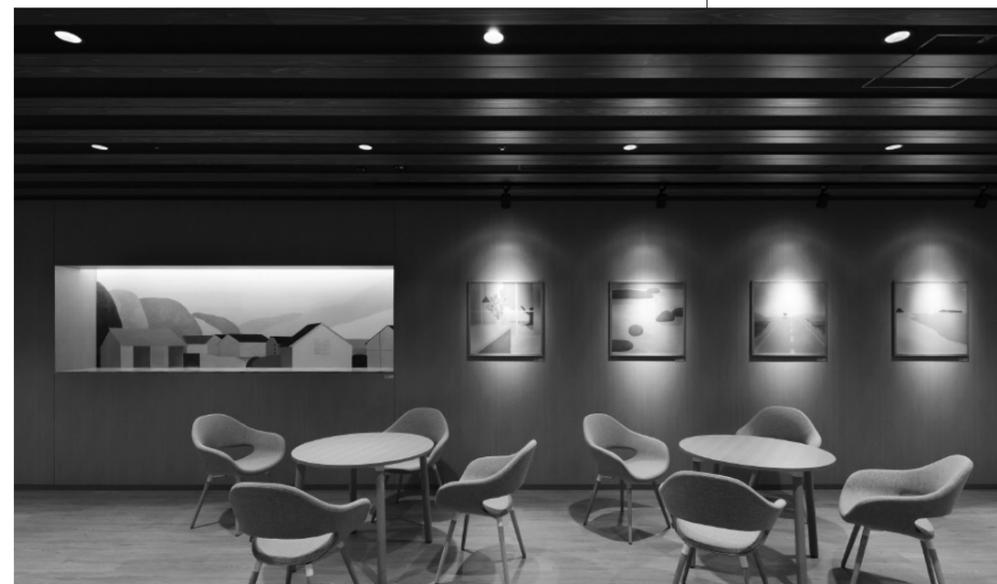


診察室

患者さんを朝まで抱えるという事を2000年前後に何度か経験しており、当時にもあった大阪の精神科救急システムはどうなっているのだと嘆いたものである。阪南病院では2004年に黒田院長が就任、本当に必要な精神科医療は救急にあると黒田院長は考え、その充実の力を注いできた。当院と北摂のさわ病院の精神科救急の取り組みで、大阪の精神科救急の状況は大きく変わった。夕方以降に入院できないという状況は無くなったのだ。現時点では5単位と日本で有数の規模の精神科救急病棟を阪南病院は運用している。また、大学における医療レベルに劣る事が無いように、新しい医療を次々と導入を続けており、難治性の統合失調症の治療に使われるクロザピン、麻酔下での電気けいれん療法(m-ECT)、睡眠の終夜脳波検査、児童思春期精神科入院治療、r-TMS(反復経頭蓋磁気刺激)、光トポグラフィー検査なども導入している。

精神科医療は過去の法律である精神病院法の影響もあってか精神科患者の身体疾患の治療を十分に出来なかったという歴史がある。また、精神科病院で強制的な入院を要する患者さんが一般病院に移って治療を受けることは難しい。その点で総合病院での精神科の重要性があったのだが、精神科病棟での採算性の悪さゆえに日本中の総合病院から精神科病棟が消えていった。私が以前に勤務していた病院もその一つである。その結果として、身体的な状態に不安のある精神科症例が安心して入院できる場所は減ってしまった。身体的に不安のある患者さんを受けるときに我々精神科医は、急変時には死をも覚悟してほしいと御家族に言わざるを得ない事が多い。

精神科病院の患者さんが身体的治療を普通に受けるという当然の権利を充分には受けられないという現実



B1階 エントランスホール

が存在する。当院では連携している総合病院などの御協力もあって何とかやりくりしているものの、高齢で持病を持っている認知症の方の入院が多くなってきた現在、問題は昔より大きくなってきているといえる。

当院では身体科の必要性を黒田院長が訴え、それに応じていただいた身体科医師(内科、整形外科、放射線科、歯科、麻酔科、皮膚科)が常勤・非常勤含め精神科病院としては比較的多数在籍する。それでも、十分とは言えない状況である。精神科医療を安全に受けただけよう主に内科の充実が急務となっている。我々の理念に共鳴いただける先生方の御助力、御参加をお願いするところであります。



3月医局会

精神科医療に関心がある、開業する意思は無いが新たな勤務場所で自分の腕を試したい、家事に専念していたが再び内科医療に参加したい、開業しているが病院での治療に関心がある、そろそろ定年でもあり、公的な病院から働く場所を移したい、等々いろいろな状況にある内科医の先生方からの御連絡をお待ちしております。実情を詳しく知りたいという場合には御見学もなさってください。条件など詳細はお問合せいただければ、御説明させていただきます。なお、当院は医師の働き方改革でいうA水準を達成しております。

当院での内科医の仕事について以下に簡単に記します。勤務は日中のみです。当直はありません。夜には輪番で当直医からの相談に応じていただく、オンコールが月に何度かあります。職員外来、入院患者さんの治療や相談、助言、入院受け入れの際の判断で内科医に御助言をいただくこともあります。

血液の
分析装置

当院では超電導式のMRI、ヘリカルスキャンCT、ほぼすべての項目の院内血液検査(日中)、放射線科医師の常勤などの体制が備わっております。また、国内学会出張は年に3回まで経費の支給があり、専門医維持には問題は無いと思われれます。御連絡をお待ちしております。

◎内科医、その他身体科医師の求人についての

問い合わせ先

連絡先：阪南病院 Tel:072-278-0381

メール：resident@hannan.or.jp

(応答に数日かかる事がございます。)

戦略企画：小田真由美

医局：横田伸吾



病院前景

仁泉ひろば

jinsen-park

大阪医科薬科大学サッカー部 伊藤隆英部長就任式の報告

文責／今井義朗（学56期）

令和6年5月11日にホテル阪急インターナショナルにて、大阪医科薬科大学サッカー部の部長就任式が開催されました。2023年度から、田中慶太郎前部長（学40期）の異動に伴い、伊藤隆英先生（学38期）が新たに部長に就任されましたが、コロナ禍の影響で部長就任式を開催することができませんでした。しかし、コロナ禍も収束し、サッカー部のOB活動も再開すべきとのことで、今回、伊藤隆英部長の就任式を開催する運びとなりました。

サッカー部OB会としては約5年ぶりの開催でしたので、多くの先生方が参加してくださいました。木村文治会長（学27期）のご挨拶に始まり、鳴海善文先生（学30期）の乾杯の音頭で開宴となりました。司会進行は今井義朗（学56期）が務めました。

参加していただいた先生方には一人一人壇上で挨拶をしていただき、学生時代の懐かしい思い出話を披露していただき大変盛り上がりました。学生時代に戻ったような楽しいひと時を過ごすことができました。

そして現役部員は、関西医科学生サッカー大会の期間中でしたが、学生の主将山田哲也君（4回生）と主務住友雅弥君（4回生）も試合終了後に駆け付けてくれ、2回戦突破の報告をしてくださいました。現役サッカー部の活躍は、OBにとってかけがえのないものです。ちなみにこの大会で現役部員は見事優勝し、後日祝勝会も開催されました。

さて今回、サッカー部監督の交代も行われました。24年間もの長い間監督業を務められた川上万平先生（学29期）が今年で勇退され、井上善博先生（学50期）が新たに監督に就任となりました。川上万平先生には皆様方から温かい拍手が送られ、井上善博先生には新監督の挨拶をいただきました。

そして、田中慶太郎前部長と伊藤隆英部長よりご挨拶をいただき、正式に大阪医科薬科大学サッカー部部長の引き継ぎが行われました。最後には、サッカー部伝統の学歌斉唱を皆さまと肩を組んで熱唱し、伊藤隆英先生と現役部員へのエールを送り、就任式は終了しました。

大阪医科薬科大学サッカー部（蹴友会）の固い絆を改めて感じることができました。今後も年に1回はOB総会を開催する予定です。多くのOBの先生方にお集まりいただき、大阪医科薬科大学サッカー部を盛り上げていけたらと思いますので、よろしく願い申し上げます。



参加者（敬称略）

小野秀太（学17期）	鳴海善文（学30期）	天上俊之（学40期）	今井義朗（学56期）
古川恵三（学20期）	岡村武彦（学32期）	芦田京子（学42期）	田中亮（学56期）
磯田幸太郎（学22期）	中川浩彰（学32期）	鄭栄植（学42期）	南幸一郎（学58期）
濱田偉文（学24期）	陵本清剛（学36期）	白川重雄（学43期）	北田和也（学61期）
植田直樹（学26期）	伊藤隆英（学38期）	小池洋志（学44期）	庫本達（学61期）
木村文治（学27期）	植木健（学38期）	中野敦之（学44期）	山本修平（学61期）
川上万平（学29期）	康純（学39期）	木本真史（学48期）	山田哲也（4回生）
藤原正隆（学29期）	田中慶太郎（学40期）	井上善博（学50期）	住友雅弥（4回生）

受賞・受章の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受賞・受章等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。編集係

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimujinsenai.net

メディア掲載・書籍発行の際は 編集部にお知らせください

テレビ、ラジオ、新聞などのメディアにご掲載になられた会員諸先生方がおられましたら掲載された原本を同封のうえ、事務局までお送りください。（自薦・他薦は問いません）

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimujinsenai.net

ご開業の際は 編集部にお知らせください

新規でご開業された会員諸先生方がおられましたら事務局までお知らせください。（自薦・他薦は問いません）

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimujinsenai.net

下咽頭がんで 声を失ったりハ医が、 がんと共存していくと思えるまで

～生きていくには社会参加が必要だ！～

第二回

文責／太田利夫（学31期） 掲載：メディカ LIBRARY from メディカ出版 <https://ml.medica.co.jp/series/rihai>

#003: 青天の霹靂 声を失う

声をとるか命をとるか

2016年7月、救命のために私は手術を受けました。内容は、喉頭全摘出、食道摘出、化膿性脊椎炎病巣搔爬および血管柄付き遊離空腸・皮膚移植など。要は悪いところをすべて取って、いろいろ移植したということです。耳鼻科で喉頭と食道を摘出し、整形外科で脊椎炎搔爬術を行い、消化器外科で遊離空腸を採取し、形成外科で空腸移植血管吻合術を行うというチームプレイで、約14時間に及ぶ大手術でした。

このときの妻の気持ち

手術中、一人で個室で待っているのは不安でした。しかし、担当の看護師さんが絶えずやってきては励ましてくれたおかげで不安が軽減しました。さらに、勤務時間外にもかかわらず夫の手術が終わるまで待ってくださり、ICUに入るのを付き添ってくれました。この気遣いは一生忘れられない“寄り添い”でした。

摘出した標本を見ると、声門と食道は大きく腫れており、空気や食物が通過するのは困難な状態になっていました。さらに食道には大きな孔が（食道穿孔）！明らかに放射線治療の副作用でした。病理組織検査の結果は、摘出した標本と周りのリンパ節にがん細胞は認めず。すなわち、放射線治療は効果があったということです。がんをなくすかわりに食道に穴があき、声を失ってしまったなんて皮肉でしょう。手術から9年経った現在（2023年）もがんの再発はありません。

目覚めその後

手術後3日目に集中治療室で意識が戻りました。「生き

ている！」そう思いましたが、声が出ない現実を認識し、愕然としました。この絶望感と同じ苦しみを味わった人しかわからないでしょう。高揚していた気持ちから奈落の底に落とされた、ネガティブなターニングポイントでした。

手術で咽頭と食道を摘出したのですから当然声は失いましたが、変化はそれだけではありませんでした！

手術前は空気と食べ物と同じ道を通して行っているため、誤って飲食物が気管に入る（誤嚥）可能性がありましたが、喉頭をとることで気管と食道が完全に分離し、食事の際に誤嚥することはなくなりました。しかし、首に大きな孔（永久気管孔）があいているので、そこから水が入ると直接肺に水が流れていき、肺炎や最悪な場合は溺死してしまうという大きな危険が生じます。プールや浴槽に入ったり、シャワーを浴びるのにも注意が必要な状態になってしまったのです。

永久気管孔、気管呼吸者について

永久気管孔とは、喉頭をとることによって首の前にあいた直径約1cmの穴のことをいいます。ここで気管を介して外界と肺がつながっています。呼吸はこの穴で行うため、穴がふさがると窒息してしまいます。

永久気管孔をもつ人を気管呼吸者といいます。気管呼吸者は、当然声は出ません。外の汚れた空気が直接肺に入ってくるし、穴から水が入ると溺れます。うがいができないし、鼻もかめない。熱いものをフーフーと息を吹いて冷ますこともできません。空気が鼻を通過しないので匂いもわかりません。大好物のお寿司もワサビがきつくて、食べると涙がポロポロ、など多くの不都合に困っています。これらは多くの気管呼吸者の悩みです。

のどの手術後の機能変化

- ①声が出なくなる
- ②食事が摂りにくくなる（腸を移植した場合）
- ③痰が増える
- ④外の汚れた空気を直接気管に取り込むため、肺の感染症に注意が必要
- ⑤匂いが感じにくくなる
- ⑥手術の影響で首が硬くなり、後ろを振り向きにくくなる
- ⑦いきめなくなるため、便秘がちになる
- ⑧そばをすすったり、ストローで吸うことができなくなる
- ⑨熱いものをフーフーして冷ませなくなる
- ⑩鼻がかめなくなる
- ⑪ガラガラうがいができなくなる
- ⑫入浴時は浴槽に肩までしか浸かれない。シャワーも注意が必要

#004: 声を失い、満足のいくコミュニケーションがとれない生活

心境、日常生活・社会参加は？

一般病床に移ってから、「なんとか筆談でコミュニケーションを」と思い、筆談を始めました。しかし書く速度が遅く、内容も限られていて十分ではないため、思っていることがすぐに伝わりませんでした。

退院後の自宅でも同じで、毎日イライラしていました。家族ともうまくコミュニケーションがとれず、人前に出るのが怖くなり、引きこもりの生活でした。

「生きている価値があるの？」とさえ思うことがありました。仕事などできる状況ではなく、まだまだやり残したことがあるにもかかわらず、院長職も辞することになり、「悔しい！」の一言でした。後にこれがパワーの源のひとつになるのですが、そのときはそんなことは思いもせず、ネガティブなことばかり考えていました。

そのうえ手術後3カ月に内視鏡検査をしたところ、食道がんが発見されました。食道がんは下咽頭がんの30～40%の人に併発するといわれており、ご多分に漏れなかったのです。ステージは1、初期だったので内視鏡視下で切除を行いました。

その後、再発はなかったのですが、ここまでくると、なかば開き直りの心境にもなりました。だから家にも仕方ないと、その年の年末くらいからすこしずつ仕事に行くようになりました。もちろん十分なことはできるわけありません。ただ顔を出すだけで、事務的なことをするくらいでした。ほとんど人と交わることはなく、フラストレーションは溜まる一方でした。

気管呼吸者の訴え

言語機能廃絶	100%	すすりにくい	56%
入浴のトラブル	88%	嗅覚障害	47%
猫舌	87%	ワサビなどを食べにくい	38%
鼻をかみにくい	65%	便秘傾向	34%

その後、すこしずつ人にも慣れてきました（あくまでも身近な人だけですが）。翌年、2017年2月、2年ぶりに広島で行われた回復期リハビリテーション病棟協会の理事会に出席しました。もちろん妻の助けがなくては、移動や宿泊もままならなかったのですが、遠出するのは久しぶりでした。

理事会でのあいさつは、コンピュータの発声ソフトを使用しました。声に未練があったのだと思います。その後、10月に久留米、翌年の3月に岩手での学会、理事会にも出席しました。妻が椎骨動脈解離になり、安静が必要なため、岩手には息子が付き添ってくれました。

しかし依然として、コミュニケーションツールは筆談しかありませんでした。

筆談の問題点は、文字を書くのに時間がかかる、書ける情報量が制限される、微妙なニュアンスが伝わりにくい、1対1以外でのコミュニケーションがむずかしいなどがあります。その結果、スムーズで十分な意思疎通ができず、お互いイライラしてしまいます。

ただし会議など、静かにしないとイケない場では、筆談を使用するビジネスマンも多いそうです。

このときの妻の気持ち

離床が進まず、疼痛に対する恐怖から拒否をするようになりました。頑固者で（病気になる前からですが……）、経口摂取が許可されているにもかかわらず、のどが詰まるからと言って食事を摂らない夫に、担当の看護師さんと一緒に、なかば押し切るように離床させ、食べたいと思うものをすこしずつ食べさせました。

私は、うすすらとしか覚えていませんが、なんでも拒否する、厄介な患者だったと反省しています。妻にはよく看病してくれていたと、感謝の気持ちでいっぱいです。

～ 続きます ～

太田利夫先生は令和6年6月17日にご逝去されました。ご逝去を悼み、心よりご冥福をお祈り申し上げます。御遺志により、本稿は第4回まで予定通り掲載をさせていただきます。

会 員 著 書

バスキュラーアクセスの手技&Tips

[Web 動画付]

腎臓内科医と形成外科医のコラボレーション 改訂第2版

著 者 岡崎 睦 佐藤 英一 (学42期)

出版 社 メジカルビュー社

価 格 5,800円 + 税

筆者からのコメント

佐藤 英一 (学42期)

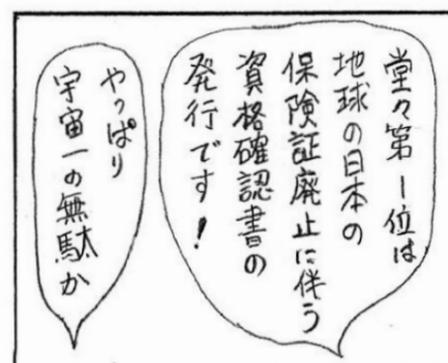
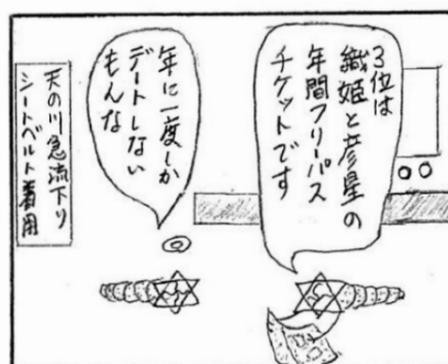
千葉県松戸市にごぞいますIMS(イムス)グループ医療法人財団明理会新松戸中央総合病院に勤務しております腎臓内科医です。東京大学形成外科の岡崎 睦教授とともに15年以上血液透析患者さんのバスキュラーアクセス手術に関わらせて頂いております。今までに「バスキュラーアクセスの手技&Tips(同著 同社2018年)」、「バスキュラーアクセスサルベージ手術集(同著 同社2021年)」を刊行頂きました。このたび前者の改訂版となります「バスキュラーアクセスの手技&Tips[Web 動画付]腎臓内科医と形成外科医のコラボレーション改訂第2版」を今年3月に上梓頂きました。本著もすべて当院の症例ですが、バスキュラーアクセス手術の特に

基本手技につきまして多くの写真と140編を超えるWEB動画を用いたわかりやすい内容になっているかと存じます。よろしければご一読頂き、ご批評を賜りますれば幸いに存じます。

まんが第68回

ポン太ウルス座 (学31期)

無駄



不人気?



改訂第2版

バスキュラーアクセスの手技&Tips

腎臓内科医と形成外科医のコラボレーション

Web動画 配信中!

■著者
岡崎 睦
東京大学大学院医学系研究科形成外科学分野教授
佐藤 英一
新松戸中央総合病院副院長、血液浄化センター長

全面改訂! 140本超のフルハイビジョン動画を投入!

MEDICAL VIEW

本部だより

会員訃報

次の会員が亡くなりました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医8期 金子 清先生

令和元年9月18日老衰の為ご逝去。(102歳)
昭和14年卒。

新潟県立瀬波病院名誉院長。地域医療の為に93歳まで診察に従事されました。産業医としても尽力をされ、勲四等瑞宝章を授与されました。

ご遺族 長男 謙様

高医19期 澤田 久先生

(95歳)
昭和25年卒。
高知大学をご卒業され、母校に入学。昭和25年に母校を卒業されました。高知県四万十市にてご開業され、地域医療に尽くされました。
ご遺族 妻 弘子様

高医20期 木村恭一先生

令和6年3月2日老衰の為ご逝去。(95歳)
昭和26年卒。
母校卒業後、神戸市川崎病院にご勤務され、昭和40年頃木村産婦人科を開業されました。平成27年までの約50年間、地域医療に貢献されました。
ご遺族 妻 規様

学部3期 竹内智興先生

令和6年3月27日間質性肺炎の為ご逝去。(94歳)
昭和29年卒。
母校卒業後、昭和32年より東大阪市にてご開業されました。平成22年までの45年間診療を続け地域医療に尽くされました。
ご遺族 長女 嶋谷余賜子様

学部3期 吉富錠二先生

令和4年5月11日老衰の為ご逝去。(93歳)
昭和29年卒。
公立小浜病院、三方保養センターにて外科医としてご勤務になり、地域医療に貢献されました。
ご遺族 孫 宮本真名様

学部4期 遠藤 勉先生

令和5年12月23日老衰の為ご逝去。(94歳)
昭和30年卒。
医療法人美蓉会 南草津病院理事長をお務めになっておられました。
ご遺族 長男 衛様

学部4期 和田美男先生

令和6年3月14日膀胱癌の為ご逝去。(94歳)
昭和30年卒。
母校卒業後、徳島大学産婦人科に入局されました。27歳から香川県立中央病院に勤務されました。昭和46年8月に高松市にてご開業をされ、地域医療に尽力されました。
ご遺族 妻 晴子様

学部8期 竹田一郎先生

令和3年9月4日老衰の為ご逝去。(87歳)
昭和34年卒。
京都市にて外科をご開業になり、地域医療に尽くされました。
ご遺族 長男 一夫様

学部9期 宮島良夫先生

令和6年3月28日老衰の為ご逝去。(89歳)
昭和35年卒。
長野県にて裾花病院の院長、老健施設「すめらぎ」施設長をお務めになっておられました。
ご遺族 妻 鎌子様

学部10期 樋田之宏先生

令和5年10月20日誤嚥性肺炎の為ご逝去。(87歳)
昭和37年卒。
母校卒業後、34歳の時にお父様の跡を継いで内科医院を継承されました。茨木市医師会の役員を歴任され地域医療にご尽力なさいました。
ご遺族 妻 紀代様

学部11期 江原英彦先生

令和6年4月6日老衰の為ご逝去。(86歳)
昭和37年卒。
母校卒業後、母校大学院博士課程に進まれ昭和42年に修了。昭和43年から金沢病院(神戸市灘区)に勤務されました。昭和47年に江原医院をご開業され地域医療に貢献されました。
ご遺族 妻 恭子様

学部11期 酒井 晃先生

令和6年4月3日肺炎の為ご逝去。(87歳)
昭和37年卒。
母校卒業後、昭和43年より酒井診療所を開設され、平成23年まで診療を続けておられました。
ご遺族 子 矢間加奈子様

学部13期 久次米隆司先生

令和6年2月27日急性心筋梗塞の為ご逝去。(85歳)
昭和39年卒。
母校卒業後、徳島県にて内科を開業され地域医療に貢献されました。
ご遺族 妻 滋子様

学部17期 山崎康宏先生

令和6年4月7日誤嚥性肺炎の為ご逝去。(84歳)
昭和43年卒。
豊中市にて眼科を開業され、地域医療に尽力されました。
ご遺族 子 眞吾様

学部20期 金田州弘先生

平成31年1月5日肝硬変(食道静脈瘤破裂)の為ご逝去。(76歳)
昭和46年卒。
尼崎市の「いなでら透析クリニック」にてご勤務になり、地域医療に携わっておられました。
ご遺族 妻 優子様

学部27期 富松昌彦先生

令和6年5月6日HS状結腸癌の為ご逝去。(72歳)
昭和53年卒。
母校卒業後、東京女子医科大学消化器内科に入局。平成4年には東京女子医科大学附属第二病院(現東京女子医科大学足立医療センター)内科IIの講師に就任され、平成9年4月に同大学内科助教授、平成19年

には教授にご就任されました。平成23年にパーキンソン病療養の為に志半ばでご退任され、加療中でした。本年1月に癌を告知(ステージIV)され、ご自宅で最期まで穏やかに過されました。
ご遺族 妻 千賀子様

学部28期 杉野正一先生

令和6年3月16日膵神経内分泌癌の為ご逝去。(70歳)
昭和54年卒。
母校第一内科でのご勤務を経て、藍野病院院長に就任され、地域医療に尽くされました。
ご遺族 妻 ひとみ様

学部30期 今津好秀先生

令和6年3月23日急性心機能不全の為ご逝去。(74歳)
昭和56年卒。
母校卒業後、昭和58年に岡山大学医学部附属病院脳代謝精神科の助手を務められ、昭和60年からは母校の神経精神医学教室の助手に就任されました。平成元年から新阿武山病院の診療部長をお務めになり平成7年に今津診療所を開設され地域医療に尽くされました。
ご遺族 妻 京子様

学部33期 青山直樹先生

令和6年4月29日急性心不全の為ご逝去。(67歳)
昭和59年卒。
守口けんじん会クリニックにて泌尿器科医としてご勤務になり、地域医療に携わっておられました。
ご遺族 妻 恵子様

学部43期 愛宕利英先生

令和6年3月24日くも膜下出血の為ご逝去。(56歳)
平成6年卒。
高槻市にてあたご耳鼻咽喉科を開業されておられました。
ご遺族 妻 幸様

開業しました!

伊元さやか先生 (学 59 期)

名称 さやかレディースクリニック
住所 〒531-0073
大阪市北区本庄西2-5-26
電話 06-6485-5050
診療科目 産科、婦人科
診療時間 午前 9:30~13:00
(土曜 9:00~13:00)
午後 15:00~18:30
休診日 水曜、日曜、祝日、土曜午後
ホームページ

<https://www.sayaka-lc.com>

E-mail sayaka.ladies@gmail.com

仁泉会の先生方に一言

このたび、実家である旧樋口医院を継承し、産婦人科のクリニックを開業いたしました。父がそうであった様に、地域に根ざしたクリニックを目指します。まだまだ勉強途中ですが、患者様が安心して通院できる様努力してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願いいたします。

編集部より

会費納入のお願い

年会費

令和6年度 10,000円

令和5年度 10,000円

令和4年度 10,000円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。ご投稿お待ちしております。

●55巻5号(令和6年9月1日発行)

締切 令和6年7月末日

●55巻6号(令和6年11月1日発行)

締切 令和6年9月末日

●送付先:仁泉会事務局

〒569-8686 高槻市大学町2-7

E-mail: jim@jinsenka.net FAX:072-682-6636

編集後記

近年は酷暑が続いており、今年も高温が続く予想になっています。仁泉会諸兄弟におかれましても、くれぐれも体調管理にお気をつけください。

5月26日に仁泉会総会が京都のホテルグランヴィアにおいて開催されました。本号にも当日の様子や諸先生方のご挨拶を掲載いたしました。その中で植木實理事長から2027年の創学100周年に合わせて行われている病院新本館B棟建設が順調に進んでいるとのお話があ

りました。旧手術室や5号館、臨床講堂などがあった場所であり、2022年7月完成のA棟に接して建てられます。また大学東側には新たに研究棟が建設されており、医薬看を有する母校の研究成果が期待されます。現在は工事中で学内も混然としていますが、来年夏には新本館が完成する予定です。気の早い話ですが、来年あたり久しぶりに母校を訪れてみられてはいかがでしょう。お昼ご飯に多津屋もいいのですが、日・祝はお休みです。

(治)

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの

医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻

tel:072-761-8434



ハードルをジャンプ!!

広告募集!

仁泉会ニュースでは、広告の募集もしております。

ご出稿のタイミングや料金などは事務局までお問い合わせください。

TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636

e-mail / jim@jinsenka.net